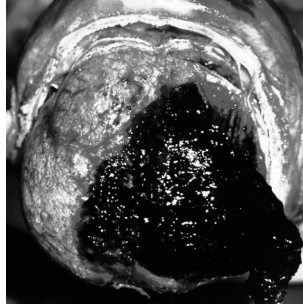


血腫が考えられる。急性硬膜外血腫では血腫が次第に大きくなって頭蓋内圧が亢進し、脳ヘルニアを生じるようになると清明であった意識が障害されてくる。この意識が清明な間を意識清明期と呼ぶ。「受傷3時間後に強い頭痛」が生じたのは、血腫が大きくなって頭蓋内圧が亢進してきたからだと考えられる。そのために、脳ヘルニアを生じ「嘔吐し、次第に呼びかけに反応しなくなった」のであろう。

画像診断

頭蓋骨の内側で硬膜の外側に大きな血腫が存在しており、急性硬膜外血腫と診断される。



診断

急性硬膜外血腫。

- a ○ 急性硬膜外血腫は頭蓋骨の内側で硬膜の外側に血腫が存在するもので、交通外傷などでは多く認められる。意識清明期が存在するのも特徴的である。
- b × 急性硬膜下血腫は交通外傷などに伴うことが多い。急性硬膜下血腫では意識清明期が存在することもあるが、硬膜の下に血腫が形成されるので、この患者の写真とは異なる。
- c × くも膜下出血は脳動脈瘤などで内因性に生じることもあるが、外傷により生じることもある。外傷性くも膜下出血ではくも膜下腔に血腫が広がるはずである。
- d × 頭部外傷では外傷性脳内出血を認めることも多いが、この患者では脳表面に血腫が存在するので否定的である。
- e × 脳挫傷は交通外傷などによる急性硬膜下血腫に伴うこともあるが、脳の中の病変であり、この患者では脳表面に血腫が存在するので否定的である。

正解：a